

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105354
法人名	松山医療生活協同組合
事業所名	グループホームなないろ
所在地	松山市立花2丁目2番15号
自己評価作成日	平成27年6月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「共に笑って 共に楽しく」の理念の下、出来る事と出来ない事を見極め、自立支援・自己決定に重点を置きその人らしさを引き出し、残存能力を活かした介護を行っている。接遇マナーに気をつけ不快な思いをさせない対応を心掛けている。母体病院と連携し、適切な医療を受ける事ができる。本人の希望に沿った個別の外出支援を行っている。転倒予防の為、見守りを強化している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議をきっかけに区長と関わりができて、毎月町内たよりをいただくようになり、地域情報が得られるようになった。又、事業所の行事があれば回覧板で情報を回してもらっている。今年は、地域貢献の一つの取り組みとして、事業所が中心となり「認知症サポーター養成講座」の開催を予定している。近所のスーパーの方達とは、買い物等で顔馴染みになっており、近隣・町内会から15名の参加があった。2ヶ月に1回のオカリナの演奏や毎月1回の傾聴ボランティアの訪問があり、利用者は外部者とおしゃべりすることを楽しみにしているようだ。
職員の年齢層は幅広く、管理者はミーティング時以外にも個々に面談を行い、それぞれの意見等を聞いている。職員からの提案で、新聞の記事やコラム等を職員が読んで利用者に最新情報を伝えるよう取り組んでおり、利用者の楽しみになっている。そのような取り組みが利用者の読書欲につながり、懐かしい本をもう一度読み直す方もあったようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

日野 久美

評価完了日

H27年6月21日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 以前掲げていた理念は長く、全文覚えていない職員が多く、皆で話し合い念頭に置きながら支援できるよう短く良い物に変更した。新しく掲げた「共に笑って共に楽しく」という理念の下、日々理念に沿った支援に取り組んでいる。理念は利用者に書いて頂いた物をホールのよく見えるところに掲示してある。 (外部評価) 前回の外部評価実施後に、管理者と職員で話し合い、短く覚えやすい理念作りに取り組んだ。ミーティング時等には、理念が実践につながっているかを振り返っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) グループホームの近隣に住んでおられた方が多く、在宅当時買い物に行っていたスーパーから毎日魚の配達をして頂いている。買い物に行くと店員さんや知り合いの方から声を掛けて頂くこともある。町内会にも入会しており、神輿の休憩場所として場所を提供している。秋祭りと敬老の日には近くの保育園児が訪問してくれている。「まもる君の家」に登録しており、児童から感謝の手紙を頂いている。 (外部評価) 運営推進会議をきっかけに区長と関わりができて、毎月町内たよりをいただくようになり、地域情報が得られるようになった。又、事業所の行事があれば回覧板で情報を回してもらっている。今年は、地域貢献の一つの取り組みとして、事業所が中心となり「認知症サポーター養成講座」の開催を予定している。近所のスーパーの方達とは、買い物等で顔馴染みになっており、近隣・町内会から15名の参加があった。ひとり暮らしの高齢者が多い地域に所在する事業所として、今後は、高齢者の困りごと等の相談に乗ることができたらと考えている。2ヶ月に1回のオカリナの演奏や毎月1回の傾聴ボランティアの訪問があり、利用者は外部者とおしゃべりすることを楽しんでいるようだ。	管理者は、「利用者がひとりで歩いていても、地域の方がサポートしてくれるような地域とのつながり」を目指している。地域とのおつきあいをさらに深めながら、事業所の理解、協力者を増やしていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護教室を開催する旨の掲示はしてあるが開催には至っていない。近隣の小学校で認知症絵本の読み聞かせに参加させてもらっている。7月18日の家族会において「認知症サポーター養成講座」を開催予定。町内会長に呼び掛けて頂いたり、近隣のスーパーの従業員にも呼びかけ、地域における認知症ケアの拠点として社会的役割を果たしていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月間の生活の様子を写真にして説明。当ホームの取組みについては資料添付をして報告。その中で課題や問題点があれば助言、アドバイスを頂き今後のケアにつなげている。町内会長、近隣の住民に参加して頂き当ホームの取組みを知って頂いている。家族からも不安に思っていることや要望をお聞きして今後の支援につなげている。	
			(外部評価) 会議には、近隣の方や地区内の他グループホームの職員、複数のご家族が参加している。会議時には、利用者の外出や趣味活動する様子の写真等をお見せしながら、活動について報告を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ケアのあり方や問題点等の助言、他施設の取組みを紹介して頂き参考にさせて頂いている。改正があったときは資料を持参してわかりやすく説明して下さった。	
			(外部評価) 運営推進会議時に近所との交流についてアドバイスがあったことをきっかけに、花火大会等の地域行事へ利用者に参加したり、事業所行事に地域の方を招待する等して交流する機会を作っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望が強く外に出ようとされる利用者には落ち着くまで寄り添ったり、ベランダに出てお茶を飲みながら気分転換を図り傾聴する事により、胸の内がわかり、共感する事で落ち着かれることもある。日中は施錠していない。	
			(外部評価) ベッドからの転落が心配される利用者について、夜間のみベッド柵を付け対応しているケースがある。事業所からは、居室に畳みを敷いて休んでもらう等の提案を出し、話し合われたが、利用者がベッドに慣れているようなこと等もあり、ご家族からの要望で夜間のみベッド柵を付け、対応することになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し研修にも参加して日々、虐待防止に努めている。身体的虐待だけでなく、言葉による虐待を無意識に発している時はその都度注意をしている。又、職員のストレスも虐待に繋がる恐れもある為、待遇面も配慮している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアルを作成し研修にも参加している。以前、家族から相談があり、一名成年後見制度を利用されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は時間をかけ丁寧に説明している。暫定的なケアプランを提案し、ホームの環境に早く慣れて貰えるよう、家族からの情報を頂いている。医療との連携、重度化した時の看取りについても話し合っている。介護報酬改定時には説明文書を作成し、同意書をもらうようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の要望・意見等直接言いにくい事も把握できるよう意見箱を設置している。利用者には直接意見・要望をお聞きしてミーティング等で話し合い要望を反映できるよう工夫している。家族会を年2回、納涼会と忘年会にあわせて開催している。面会時、写真を見て頂いたり、近況報告をしている。ケアプラン説明の時にも家族の意見・要望をお聞きしている。 (外部評価) 地元からの利用者が多く、ご家族の来訪も頻繁にあるため、その都度様子を見てもらいながら、相談したり意見や要望を聞いたりしている。年2回、運営推進会議終了後に家族会を行っており、全ご家族が参加して、利用者と一緒に食事したり、職員の劇や歌を楽しんだりして過ごしている。「事業所を利用するようになり、笑顔が増えた」と感想を話してくださったご家族もあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月1回のミーティングで意見交換をしている。意見がたくさん出るよう事前に話し合う内容を開示している。出された意見は職員で話し合い、実践している。次回のミーティングにおいて問題点、デメリット、課題等はなかったかモニタリングしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の年齢層は幅広く、管理者はミーティング時以外にも個々に面談を行い、それぞれの意見等を聞いている。職員からの提案で、新聞の記事やコラム等を職員が読んで利用者に最新情報を伝えるよう取り組んでおり、利用者の楽しみになっている。そのような取り組みが利用者の読書欲につながり、懐かしい本をもう一度読み直す方もあったようだ。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>希望休は必ず取得できるよう配慮し、働きやすい職場環境を整えている。開設当初からの職員も多い。但し、人手不足の為、外出など公休をつぶして対応しているので今後の課題といえる。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内の研修は月1回程度行われ全員参加となっている。外部の研修は日勤扱いとし参加しやすい体制をとっている為、前年度は18名、15の研修に参加できている。研修での学びを全職員が共有できるようミーティングで報告している。接遇マナー向上の為、接遇マナー振り返りを提出し事例検討している。毎月のミーティングで認知症の勉強会を行っている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム連絡会主催の相互研修会に参加し他のグループホームで経験した学びを得て情報を共有し、当ホームに欠けている所を取り入れサービス向上に努めている。近隣のグループホームの管理者に運営推進会議に参加頂き情報交換をしている。昨年夏に「花火のゆうべ」に招待頂き、利用者3名と交流を図った。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>家族、担当ケアマネと連携して入所までの経過を把握するようにしている。可能であれば家族と一緒に見学して頂き暫くホームで過ごして利用者との交流を図って頂いている。その間、家族から情報を聞いて安心して生活できるように工夫している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始となる前に家族の要望や不安に感じていることをしっかり受け止めケアプランに取り入れるようにしている。家族の意向を重視してサービス提供出来るように努めている。急変した時の対応や重度化した時の対応として看取りについても話し合っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用待機者が多く、必要と思われる時期に利用できない事がある。担当ケアマネと相談しながら見極めを判断している。1階のデイサービスを利用しながら待機されている方は時折声を掛け状況を把握している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「お世話」からの脱却。出来る事は自分でして頂く「自立支援」、「自己決定」、「自主性」をもって頂けるような働きかけを行っている。一緒に洗濯物をたたんだり、ごぼうの笹がきをしたり、入浴の用意をしたりして頂いている。利用者から「洗濯物ないの?」と言って下さることもある。職員は終わった後は必ず「ありがとうございます」と感謝の言葉を添えている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出行事の時は家族に参加して頂き車椅子を押して支援して頂いたり、お誕生会に参加して頂いたりしている。年2回の家族会の後、食事会を開き、一緒にゲームや唄ったりと楽しいひと時を過ごして頂いている。可能であれば年賀状を自分で家族に書いて頂いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅当時よく行っていた「そば吉」へ電車で出かけたり、行きつけの美容院に行って頂いていた。ホームの近隣に住んでいた方が多く、病院の待合室で「さん」と声をかけられる事もある。家族と自宅に外出されたり、母体病院の一角にある喫茶では顔見知りが多かったさんの方から話し掛けられる。他施設に入居されていた姉を訪問したり、行事にお招きしたりした。現在その姉は当ホームに入居されている。 (外部評価) 日常会話の中でよく話題に出る場所や利用者がよく利用していたスーパーについての情報を知り、出かけられるよう支援している。スーパーでは店員の方が声をかけてくれるようだ。電車に乗って街に出る習慣がある方には、職員も付き添い、時刻表を見たり、切符購入のサポートや見守り等をして楽しみを続けられるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲のよい利用者同士で外出したり、食卓の席も配慮して楽しく食事ができるように心掛けている。誕生会や行事にはできるだけ参加して頂き関わりあう機会を作っている。鼻水が出ている方に「ティッシュあげて」と気遣う場面もある。孤立している方には職員が間に入り、「ね、さん」と仲をとっている。	
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院で退所された方にお見舞いに行ったり、年賀状をだしてホームの近況をお知らせしている。毎年竹の子を持ってきて下さっていた家族が終了しても差し入れして下さる。タオル、花を届けて下さり、「皆さんお変わりありませんか？」と声を掛けて下さっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の意向、希望等リアルタイムに実践している。つまらないと奇声を発する方にはドライブにお連れしたり、ベランダに出てお茶を飲みながら楽しく会話する事でストレス発散できている。一人で寝るのが淋しいという方にはご主人に泊まることを提案した(ご主人が躊躇して実現できていない)意思の疎通が出来ない方は寝たきりにさせないで離床してホールで生活の音を聞いて頂くなどしている。寝たきりの方も個別の桜を見にお連れした。その写真をみた家族が笑顔がステキとびっくりされていた。 (外部評価) 理念を実践していくためにも、職員全体で利用者の思いを把握することに力を入れて取り組んでいる。生活歴や既往歴、ADLの情報、薬情報、ケアプラン、日々の記録等々、1冊でその人の事が分かるような作りでまとめている。その状態に変化があれば情報を更新している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自宅で使用していた家具や置物など馴染みの物を持ちこんで頂き在宅生活に近い生活をして頂いている。孫やひ孫の写真、飼っていた愛猫の写真等を飾っている方もおられる。活け花、お茶の免状をお持ちの方にはホームのお花を活けて頂いたり、利用者にお茶を点てて頂くなどしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ホームのおおまかな流れは決まっているがそれに沿った生活ではなくマイペースで過ごせるようにしている。朝食・夕食時間に幅を持たせその方に合った時間に食事できるようにしている。昼寝する方、テレビを見る方、おしゃべりする方、色々な形で過ごされている様子を見守りしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 聞き取り調査を行い本人の意向や希望を把握しプランに取り入れている。職員から見た問題点・課題点を話し合い実践につなげている。次回のミーティングにおいてモニタリングを行っている。管理栄養士によるアドバイスなども取り入れている。意思の疎通が出来ない方はこちらからプランを提案し家族に説明した上で、意見などお聞きしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の意欲が低下しているような様子が見られた場合は、原因等を探って意欲支援計画を作成しており、それぞれのお好きなことや親しい人等を通じて意欲向上できるよう、具体的な計画を立て、実践につなげて成果を得ている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録に「自立支援プラン」を個々に記入し、それに沿った自立支援を実践している。日々の様子だけでなく、ケアの気づきやヒント、アイデアも記入できるように改善した。大事な箇所にはマーカーを引いている。これにより情報の共有が速やかになり、介護計画の見直しも安易になった。ルーチンワークは印刷してある。排泄・バイタルチェック表も作成し、日々の変化や食事が一目でわかるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族が諸事情で協力が得られない時は必要な物を購入している。母体病院にない診療科へは必要時受診介助を行っている。母体病院のPTや管理栄養士にアドバイスを受け協力を得ながら対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎月1回傾聴ボランティアにきてもらったり、2ヶ月毎にオカリナ演奏にきてもらったりして楽しみ事を作っている。2ヶ月に1回、介護福祉士の資格を持った理・美容師が訪問してカットしてくれるので寝たきりの方もカットしてもらえ。管轄の警察官が来られ、何かあれば連絡下さい。と名刺を頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週4日主治医が往診に来てくれるので何でも相談できる。協力病院にない診療科へは職員が受診介助を行い円滑な治療が受けられるように支援している。急変時にも協力病院のサポートがある。毎月診療情報提供書が発行され健康維持・病状安定に努めている。日本訪問歯科協会の協力により、義歯の不具合などすぐに対応してくれる歯科医がいる。</p> <p>(外部評価) 母体病院とは、24時間連絡が取れ、対応してもらえるようになっている。持病のある方の中には、以前からのかかりつけ医を受診する方もある。訪問歯科も利用できる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 24時間体制で看護師と連絡がつくようにしている。利用者の些細な体調の変化も看護師に報告し連携を図っている。看護師は得た情報や処置方法を職員全員が共有できるよう、連絡ノートに記入している。主治医との橋渡しの役割もしている。協力病院の訪問看護ステーションもスムーズな治療、処置が受けられるよう支援してくれる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院しても安心して治療が受けられるよう、日頃の様子を看護サマリー、受診経過表等文書で申し送っている。入院中も面会に行き状況の把握をしている。退院前にはミーティングを行いホームへの復帰がスムーズに行くよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に看取りについて家族に意向をお聞きし、ホームで看取りを希望された場合は「看取り介護の具体的な支援内容」を用いて詳しく説明した上、「看取りについての同意書」に署名・捺印している。又、気持ちは変わるのでこの限りではないので変わった時はいつでも申しつけ下さいと一言添えている。重度化した場合は主治医、看護師、管理者、家族で話し合い柔軟な対応で安心して看取りが行えるようにしている。</p> <p>(外部評価) これまでに3名の利用者の看取りを支援している。入居説明時には、終末期のあり方についてご家族等に説明しており、終末期には、ご家族の気持ち等をお聞きしながら柔軟に対応している。現在、複数の方が最期まで事業所で過ごしたいと希望している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間体制で看護師・協力病院と連絡が取れるようにしている。緊急時の対応マニュアルを作成している。消防署での普通救命講習を受講したり、AED設置の時にAED講習を受講している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・災害時に備えて地域の方々をメンバーに加えた緊急連絡網を整備している。毎日魚を配達してくれている近くのスーパーにも協力をお願いしている。年2回の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。火災報知機・火災通報の直通電話も完備出来ている。前回の外部評価の後、夜間を想定した避難訓練を実施した。町内会との合同訓練についてはまだ実現できていないが町内会長と連絡を取りながら実現できるよう進めている。 (外部評価) いざという時に、近所の応援が得られるように、連絡網に加わってもらっている。居間には、避難場所や、近所の協力者の家、母体の病院の位置を示したマップを掲示しており、日常的に職員やご家族も意識したり確認したりできるようにしている。居室には、利用者各自で用意したヘルメットを備えている。消防署の指導の下、利用者の状態によって避難方法を「担架」「護送」「独歩」に分類しており、居間等の目に付くところに色分けした表を掲示している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇マナー向上に向け、毎月接遇マナー振り返り用紙を提出し、対応に困っている事例を職員間で検討している。子供扱いしたような言葉掛けはしないよう尊厳を持った対応をしている。訪室の際は必ずノックし、トイレ誘導の際も耳元で声掛けするなどの配慮をしている。 (外部評価) 接遇に力を入れて取り組んでおり、職員は、「利用者のことを子ども扱いしていないか」「尊厳をもって対応しているか」勉強会等でも取り上げて学んでいる。そのような取り組みを重ねることにより、利用者の暴言が治まってきたような事例がある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「テレビ見ますか？お部屋に帰りますか？」「ピンクと緑、どちらのコーヒーカップがいいですか？」「どの洋服がいいですか？」二択方式で本人に自己決定して頂いている。お誕生日のメニューも希望を本人に聞いてお好きな料理をお出ししている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝・夕の食事時間に幅を持たせその方の体調に合わせた食 事時間を選べるようにしている。例えば朝が弱い方がゆっくり 起きて召し上がれるようになってい。お風呂好きな方はの んびり入浴できたり、レクリエーションやお茶の時間を設けて いるがお誘いしても無理強いはいしないで本人の気持ちを優 先している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 衣替えを一緒に行き季節に合った服を着て頂く。更衣の時 は本人を選んで頂く。お化粧を手伝ったり、外出時はコー ディネートしてさしあげる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 使い慣れた食器を入居時に持参して頂いている。盛り付け にも気を使い見た目も楽しんで頂いている。一緒にごぼうの 笹がきをしながら「これ、何するん?」「きんぴらです。」「この 間も食べたな」そんな会話をしながらしている。食後は同じ食 器を重ねて頂き、お盆拭き、台拭きをしている。お粥を希望 される方にはお粥にするなど好みに合わせてお出ししてい る。 (外部評価) 誕生会は利用者の希望を聞き、お好きな物を用意してお祝 いしている。普段はご家族からの意見にも沿い、栄養のバラ ンスのとれた法人作成の献立に沿って事業所で食材を購入 して、事業所で食事を作っている。調査訪問時の昼食後、職 員は、利用者食器拭きをお願いしていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 協力病院の管理栄養士の献立を職員が作っているので栄 養面は安心できている。糖尿病、肥満の方の食事指導をし てもらっている。月1回管理栄養士が昼食前にきて食事を チェックしている。入居前、食欲不振で入院されていた方が 食欲がでた事例もある。嚥下困難な方はミキサー食にして経 口摂取できるよう支援している。咀嚼困難な方はキザミ食と その方に合った食形にしている。摂取量は毎日記録してい る。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は毎食後に口腔ケアを行い、夕食後は毎日 義歯洗浄剤で消毒して頂いている。介助が必要の方は職員 が歯間ブラシ、スポンジブラシ、舌クリーナーを活用して口腔 ケアを行っている。訪問歯科医師から個々の口腔ケアの指 導を頂き仕上げ磨きをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入院中、オムツ使用されていた方、入居されてから日中トイレでの排泄を促し、夜間はポータブルトイレを居室に設置したところオムツを使用しなくてよくなった事例がある。尿意、便意のない方は排泄チェックリストを作成し定期的にオムツ交換をしている。億劫がってトイレに行かれない方も誘導して失禁を予防している。立位を保持できることによりトイレでの排泄がスムーズに行えるので脚力低下予防を支援している。 (外部評価) 利用者の状態をみながら、日中はトイレで排泄できるような支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は利用者全員の排便状況を把握している。できるだけ自然排便があるように朝食時に牛乳やヨーグルトをお出ししている。食事の際は特にお茶を勧め水分を多く摂って頂いている。温電法やマッサージ等工夫しているが、どうしても便秘傾向の方には緩下剤を処方してもらっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を聞いて週間の入浴のスケジュールを決めている。予定を決めることで家族も入浴時を避けて面会に来られている。お湯が熱めが好きの方、ぬるめが好きの方、利用者個々の希望や好みに合わせ入浴して頂いている。便失禁が必要な時は適宜入浴して頂くよう柔軟な対応をしている。 (外部評価) 午前と午後の時間帯の希望を聞き、週2～3回の入浴を支援している。入浴剤や皮膚の弱い方は、石けんを使用している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の体調に合わせ、しんどい時は日中臥床して頂くこともあるが出来るだけ離床して頂ける様、おやつ、おしゃべり、散歩等楽しみを提供し安眠できるよう支援している。寝苦しくないよう室温を調節したり、寝具も清潔で季節に合った物を使用し布団を干して気持ちよく寝て頂けるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 協力病院でワンパック包装してもらい誤薬防止をしている。服薬内容が把握できるよう薬効・内服量・副作用等を記載した薬情ファイルと内服一覧表をすぐ見られるようカルテにファイリングしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お花見・納涼会・忘年会は家族の方に参加して頂き一緒に食事やゲーム等で楽しんで頂いている。活け花の得意な方はお花を活けてお水を交換したり世話を下さっている。気分転換に買い物、ドライブ、散歩がてら母体病院の喫茶に出かけている。毎日の新聞音読を楽しみにしておられる。アルコールが好きな方はいつでも飲めるようにしてある。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 在宅時代よく行っていたそば屋に定期的にお連れしたり、お風呂好きな方は温泉にお連れしたりしている。日常の買い物、散歩等も支援している。ベッド上で長時間過ごされている方も個別に近くの桜を見に行ったり、ベランダに出て外気に触れていただいている。町内の行事(盆踊り)に参加予定だったが、雨で中止となった。 (外部評価) 地元からの利用者が多く、以前から利用しているスーパーに職員と買い物に出かけたり、電車の駅が近くにあるため、以前のように電車でデパートに出かけてお昼を食べるような楽しみを続けられるよう、支援しているようなケースもある。利用者の状態も踏まえて、数人に別れて、動物園・菊花展・梅祭り・回転寿司等に出かけたり、街に出かけた際には、お土産に日切り焼きを買ってきて、みなでおやつを楽しむようなこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は外出時買い物の支払いをされている。他の方はホームで管理しているお金を手渡し自分で支払って、おつりを受け取るなどの支援をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご主人に年賀状を書いたり、希望があれば家族に電話を取り次いでいる。他ホームに入居の姉に電話でお話しできるよう、その施設の管理者にお願いし、いつでも掛けられるよう支援していた。現在その姉は当ホームに入居中。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日掃除を行い清潔を保ち、換気を行い、季節の花、珍しい花を飾っている。折り紙で季節の物を利用者と一緒に作り飾っている。空調を調節し快適な状態を保っている。職員の声が大きくて不快にさせないよう気をつけている。南向きで日当たりがよく明るい。夏場はすだれを掛けて夏の風情を味わって頂いている。</p> <p>(外部評価) 事業所は建物の2階に所在しており、ベランダを活用してベンチを置き、お茶を楽しんだりひなたぼっこしたりしている。南側向きの居間は、日差しが強くなる季節にはすだれをかけている。外には、電車の踏切りや畑が見えて、昔なじみの風景を見ながらお話しも弾むようだ。食卓に季節の花を活けており、壁には季節ごとに壁面工作を施している。調査訪問日には、全員で七夕飾り付けを用意していた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者にとって「この場所が落ち着く」という定位置があるの でなるべくその場所に居られるよう気をつけている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所時に家族、本人と相談して馴染みのある家具や好みの物を持ってきて頂く様お願いしている。家族の写真、以前飼っていたペットの写真、100歳の表彰状、ご自分で描いた絵等飾っておられる。夜間のどが渴いた時はいつでも飲めるようにお茶を置いている。</p> <p>(外部評価) クローゼットは備え付けになっており、利用者はテレビやラジオ、ご家族の写真や本等を持ち込んでいる。重度の利用者でベッドで長時間過ごす方の居室は、お好きな演歌の曲を流していた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 身体レベルに合わせた家具の配置を利用者と一緒に考え、入浴準備は自分で出来るようタオル・下着等取り易い所に置いている。大きく「トイレ」と書いた紙をトイレの戸に貼り判りやすくしている。書初めで自分の書いた名前を表札にしたり、ご主人が書いた文字を飾っている。自分のパッドとわかるよう個人名を大きい文字でパッド入れに貼り付けてある。</p>	